宮城県における全国がん登録への対応(第4報)

初年度の届出エラーのフィードバックを目的とした説明会の開催

目崎 はる香¹ 齋藤 美登里¹ 佐藤 優希¹ 佐々木 真理子¹ 鈴木 智子¹ 西方 萌¹ 只野 尚子¹ 金村 政輝^{1,2} ¹公益財団法人宮城県対がん協会 ²宮城県立がんセンター

【目的】

宮城県では約 140 の病院があるが、これまで地域がん登録事業に協力してきた病院は約 40 に過ぎない。がん登録への関わりが初めての病院でも適切に届出を行えるよう説明会などの支援策を実施してきた 1,2)。しかし、実際に全国がん登録の届出が始まったところ、ほぼすべての施設の届出にエラーがあった。そのため、届出エラーについてのフィードバックを目的とした説明会を開催したので報告する。

【方法】

説明会は2部構成とし、第1部は「平成28年症例からみた届出エラーとその対策」とし、「エラーのない届出のために」、「CSVファイルを使ったエラーチェックの方法」と題して説明を行った。第2部は届出書の作成をテーマとした演習とした。説明に用いた資料を図1~4に示す。届出エラーについては、理解しやすいよう実際にあった例を「よくある間違い」として紹介した(図2)。届出書の作成方法の違い(電子届出票へ直接入力かCSVファイル添付か)によりエラーチェックの方法が異なるため、双方で利用可能な資料を作成した(図3,4)。演習では、短答問題3題と症例問題2題を作成し、症例問題では複数の施設の視点での届出書作成とした。終了後、参加者を対象にアンケート調査を行い、内容について理解できたかどうか5段階で回答を求め、また、自由記載欄(質問、意見・要望)への回答を依頼した。

図1 説明資料 (例1)

⑩ 病理診断・形態コード ① 進展度・術後病理学的

 ◆ 性状コード(5折目)が「3.浸潤癌」の場合に 連展皮・新後病理学的が 「400上皮内」はエラー

単上世内の特は性状コード3新音は行と

◆ 性状コード(5桁目)が「2上皮内底」の場合に 連展度・新後病理学的が 「400上皮内」以外はエラー

図2 説明資料(例2)

よくある間違い

- S状態陽底に対し、S状態陽切除術施行。 術後病理結果: 設癌、 SM(癌組織は粘膜層を越えて 粘膜下層まで浸潤している)
- 病理診断・形態コード:81403(腺癌) 進展度・術後病理学的:×400-〇410 (上皮内) (限局)

図3 説明資料 (例3)

2(62-85					*405
416)r-f	816	選択可能力・デ	201	***
****	.1	482-100	400 777 (DESIGNA)	10	п
HRRS	- 1				
NERS	1	nenzi	1,1,8	10-1	0
nemii .	9.0	果果在 中国在理学 的	906 77710-000-04271	16	D
>#ND		*****	4		.0
		****	2		0
		MERCHALLER.	3.		0
		ATA - 487 - 41841 1816 1818	1		В
		10003248	1		

図4 説明資料(例4)



【結果】

80 施設から 116 名が参加し、105 名 (91%) がアンケート調査に回答した。職種別では、診療情報管理士 38%、事務職 53%、合わせて 91%であった。「エラーのない届出のために」については、「十分理解できた」と「だいたい理解できた」の合計は 82.9%であった(図 5)。「CSV ファイルを使ったエラーチェックの方法」については、「十分理解できた」と「だいたい理解できた」の合計は 66.6%であった(図 6)。「届出書の作成(演習)」については、「十分理解できた」と「だいたい理解できた」の合計は 91.5%であった(図 7)。職種別で見ると、「CSV ファイルを使ったエラーチェックの方法」についての理解度が異なっており(図 6)、診療情報管理士では「理解できた」が 95%と高かったが、他の職種では低かった。自由記載では、「今後も開催してほしい」など評価する意見が多かったものの、「覚えきれない」との意見もあった。

図5 内容の理解 (エラーのない届出 のために)

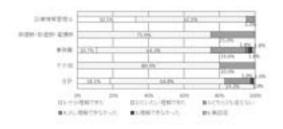


図6 内容の理解 (CSVファイルを 使ったエラーチェックの方法)

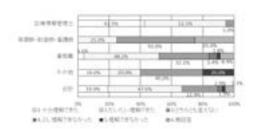
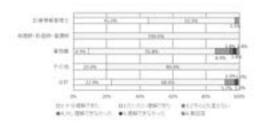


図7 内容の理解(届出書の作成・ 演習)



【考察】

「CSV ファイルを使ったエラーチェックの方法」については、職種により理解度が異なっていたものの、その他の内容については、概ね参加者の理解度が高く、当初の目的を達成できたものと考えられた。今回、エラーチェックの方法を説明したが、電子届出票の段階でロジカルチェックを組み込むことにより届出エラーが大幅に減少する可能性が高く、是非システムに反映されることを期待したい。今後も、がん登録実務経験の少ない担当者であっても届出が適切に行われるような支援策を検討・実施していきたい。

引用文献

- 1) 金村政輝, 佐々木真理子, 齋藤美登里, 長澤あかね, 鈴木智子, 鈴木美裕紀, 只野尚子: 宮城県における全国がん登録への対応-届出病院支援の取り組みー. JACR Monograph 2016;22:132-139.
- 2) 長澤あかね,佐藤優希,目崎はる香,齋藤美登里,佐々木真理子,鈴木智子,鈴木美裕紀,只野尚子,金村政輝:宮城県における全国がん登録への対応-届出病院支援の取り組み(第2報) -. JACR Monograph 2017;23:89-93.